

あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期)施策実施状況評価(令和3年度～令和5年度)

資料1

1:未実施、2:不十分だった(40%未満)、3:あまり十分でなかった(40%以上70%未満)、4:ある程度実施できた(70%以上100%未満)、5:十分できた(100%以上)

基本目標	施策の柱	施策番号	施策名	事業内容	担当課	実施状況の5段階評価	評価に当たり重視した基準	現状と課題(具体的な事業があれば記載してください)	事業実績の推移			
									項目	R3	R4	R5(見込)
1 地域で 支え合 う体制 づくり	1-1	1	地域ケア会議の推進	<ul style="list-style-type: none"> 多職種が参画する地域ケア会議を実施し、地域課題や資源の把握、高齢者支援に関する事例検討を行います。 個別会議における意見を基に、施策立案や方向性の検討につなげる庁内体制づくりや他課との連携体制づくりを推進します。 	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	高齢者支援の事例を検討することによって地域課題を把握し、地域支援ネットワークの構築に努めた。	個別ケア会議(回)	18	18	20
									地域ケア会議(回)	2	2	2
	1-1	2	在宅医療・介護連携推進事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 海部医師会、津島市医師会の協力のもと海部医療圏の7市町村にて海部医療圏在宅医療・介護連携支援センター(あまさば)を設置しています。 医療圏内における在宅医療・介護関係者との多職種による連携体制の構築を目指して、各ワーキンググループによる地域資源及び課題の把握や情報共有、切れ目のない在宅医療・介護連携の提供体制の整備を行います。 	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療・介護連携推進事業を促進すべく、医療・介護関係者に向けた研修会をはじめ、地域住民に向けた普及啓発講演会を開催している。また、市町村事業にも参加して在宅医療・介護連携の普及啓発に努めている。 医師会、歯科医師会、薬剤師会、地域及び介護関係者等とワーキンググループを定期的に開催することで、多職種による連携の強化を図っている。 				
	1-1	3	在宅医療・介護連携の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 医療・介護の専門職同士の顔の見える関係づくりを促すための研修等の機会提供を進めます。 ICTを活用するなどして、医療・介護連携を進めます。 	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	ICT(つながるまい"あま"電子@連絡帳)を利用する事業所は着実に増えてきており、各事業所間の連絡ツールとして利用も進んできている。ICTを活用し、医療と介護の連携の他、新型コロナウイルス等の情報共有・意見交換を行った。	つながるまい"あま"電子@連絡帳登録事業所(事業所)	102	104	105
	1-2	1	生活支援コーディネーターによる支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーターを配置し、行政とボランティア団体等との中間に立ち、生活支援におけるサービス・社会資源の充実と、住民主体による支え合い体制づくりの啓発活動につなげます。 	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援体制整備事業を社会福祉協議会に委託しており、生活支援コーディネーターが地域包括支援センター内に兼務で配置されている。 第2層協議体が2か月に1回、1層・2層合同交流会が年1~2回、講演会が年1回開催されている。また、生活支援コーディネーターにより社会資源の把握、ネットワークづくりが進んでいる。 住民の主体性を重要視しているため、体制構築には時間を要する。 	活動人数(人)	603	611	650
	1-2	2	協議体の設置・運営	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援・介護予防サービスの体制整備を図るため、多様な主体が参画する定期的な情報の共有・連携強化の場として、第1層協議体を設置しています。 生活支援コーディネーターと連携し、地域における協議体の活動を促進します。 	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 第1層協議体と第2層協議体が七宝・美和・基目寺地区に1か所ずつ設置されている。2か月に1回協議体が開催され、年1~2回程度の交流会が開催され、情報共有が行われている。 	第1層協議体(回)	0	2	1
									第2層協議体(3地区)(回)	10	14	18
3地区協議体合同交流会(回)									1	2	1	
1-2	3	福祉有償運送等による移動手段の確保	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関を利用することが困難な要介護高齢者や障がいのある人の移動手段として、福祉有償運送等の活用を推進します。 	障がい福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	公共交通機関を利用することが困難な要介護高齢者や障がいのある人は増加傾向にあり、福祉有償運送等の需要は一層見込まれることから引き続き、福祉有償運送等の活用を推進していく。	登録法人数(法人)	2	3	3	
1-3	1	認知症に関する知識の普及	<ul style="list-style-type: none"> 認知症に関する理解や正しい知識の普及のために、市広報紙や市公式ウェブサイトの活用に加え、認知症に関するイベントを開催するなど、認知症に関する情報の普及啓発に取り組みます。 	高齢福祉課	5:十分できた	1.数値目標等の達成状況	認知症サポーター養成講座については、市広報紙等で受講者を募集するだけでなく、出前講座として地域のサロン等に出向いて講座を行うことで、広く認知症の理解を広めることができている。	認知症講演会の開催(回)	1	1	1	
								認知症サポーター養成講座(回)	9	34	20	
								認知症予防講座(回)	7	17	10	
1-3	2	認知症初期集中支援チームによる早期診断・早期対応	<ul style="list-style-type: none"> 医療関係者や介護関係者等との連携による早期診断・早期対応に向けた支援体制の中核となる認知症初期集中支援チームを設置しています。 早期発見の大切さを啓発し、認知症に対する支援の充実を進めます。 	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	シニアいきいきアンケートの結果から認知症の疑いのある支援対象者を抽出し、必要に応じて認知症初期集中支援チームにつなげている。また、家族から受診拒否等の相談があった場合も、本認知症初期集中支援チームにより支援を行っており、専門医を受診し適切なサービスにつながる場合が多くなっている。	チーム員会議(回)	8	8	12	
1-3	3	認知症ケアパス(ふれあいケアパス)の作成・周知	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人が認知症を発症した時から、認知症が進行していく中で、その進行状況に合わせていつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受ければよいかを体系的に示した「認知症ケアパス」を作成・更新し、認知症高齢者とその家族が住み慣れた地域で安心して暮らしていくための情報として周知します。 	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	認知症地域支援推進員を中心に定期的に内容の更新を行い、地域包括支援センター、保健センター、認知症疾患医療センター及び各種認知症施策事業にて配布している。今後は、当事者及び家族の意見をどうやって内容に反映させていくかが課題である。					

あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期)施策実施状況評価(令和3年度～令和5年度)

資料1

1:未実施、2:不十分だった(40%未満)、3:あまり十分でなかった(40%以上70%未満)、4:ある程度実施できた(70%以上100%未満)、5:十分できた(100%以上)

基本目標	施策の柱	施策番号	施策名	事業内容	担当課	実施状況の5段階評価	評価に当たり重視した基準	現状と課題(具体的な事業があれば記載してください)	事業実績の推移			
									項目	R3	R4	R5(見込)
1 地域で支え合う体制づくり	1-3	4	認知症カフェ(ふれあいカフェ)の実施	■ 認知症の人やその家族などが集まり、楽しみや仲間づくりをする場を提供することで、地域において認知症の人とその家族を支援します。また、認知症カフェ運営者に対し、認知症カフェの開設・運営における支援を行います。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	市主体の認知症カフェ、コミュニティやボランティア等地域の方を中心とした認知症カフェが開催されており、認知症の方とその家族、地域住民の方などが集い、情報交換、レクリエーションなどをして楽しい時間を過ごす通いの場となっている。	認知症カフェ(市主体)(団体)	2	2	2
									認知症カフェ(地域主体)(団体)	7	8	9
	1-3	5	認知症サポーター養成講座の拡充	■ 認知症サポーター養成講座を定期的に開催することで、認知症に関する正しい知識を普及し、認知症高齢者とその家族への支援、認知症高齢者を地域で支える仕組みづくりを進め、サポーターの普及に取り組みます。	高齢福祉課	5:十分できた	1.数値目標等の達成状況	市広報紙等で受講者を募集するだけでなく、出前講座として地域サロン等に出向いて養成講座を開催することで、認知症の理解を広めることができています。また、中学生を対象に養成講座を開催することで、全ての世代で温かく見守れる地域となるように努めている。	認知症サポーター養成人数(人)	1,037	1,802	1,000
									認知症の方の地域見守り協力者学習会(回)	2	2	2
	1-3	6	認知症サポーターの活動促進	■ 認知症高齢者にやさしい地域づくりを進めるため、認知症サポーターをはじめとした支え合いの担い手と認知症の人やその家族の支援ニーズをつなげる仕組みであるチームオレンジの立ち上げを支援し、「共生」の地域づくりを推進します。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	認知症サポーターの更なるステップアップを目的とした、ステップアップ研修会等を開催している。また講演会や認知症カフェ等にボランティアとして活動できるように人材育成に努めている。	認知症の方の地域見守り協力者学習会(回)	2	2	2
	1-3	7	認知症高齢者見守り事業	■ 地域における認知症高齢者の見守り体制の構築を目的とした、認知症に関する広報・啓発活動、認知症高齢者に関する知識のあるボランティア等による見守り活動の支援を行います。 ■ 認知症サポーターの養成とともに、事業を拡充していきます。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	認知症サポーター養成講座受講者のなかで、認知症の方を地域で見守っていただける方に協力者として登録してもらっている。協力者には、サポーター養成講座で行う寸劇に参加してもらったり、認知症カフェでボランティアとして活動してもらっている。				
	1-3	8	徘徊高齢者等情報の把握・提供	■ 行方不明時の捜索活動への活用及び迅速な身元特定のため、徘徊の恐れがある高齢者等に高齢者見守りステッカーを配付し、情報把握に努めます。 ■ 認知症の人が徘徊により行方不明となった場合、登録者に対してメール配信を行い、情報提供の依頼を行います。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	見守りステッカーの配付については、ステッカーを配付することで徘徊高齢者情報を把握し、高齢者の早期発見に一定の効果があつた。 メールの配信については、徘徊が夜間に発生すると、メール配信が翌朝になる。メール受信者も、疑いのある方へ声掛けが難しいという課題がある。				
1-4	1	ひとり暮らし高齢者等の実態把握	■ 緊急時のスムーズな支援や福祉サービスの相談等に活用できるように、ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯の緊急連絡先や健康状態(既往歴)等を記載した台帳の登録整備を行います。	高齢福祉課	5:十分できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	民生委員・児童委員にご協力いただき、担当地区対象者の戸別訪問を実施している。緊急時のスムーズな支援にもつながっている。					
1-4	2	高齢者見守りネットワークの拡大	■ 市内金融機関や新聞販売店、各種ライフライン、配食・宅配事業所、生鮮食料品店、薬局・ドラッグストア等、「あま市高齢者地域見守り協力に関する協定」を結んだ民間事業所と連携し、高齢者を見守るネットワークを形成します。	高齢福祉課	5:十分できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	高齢者見守り協定により、地域の事業者も高齢者の見守りに協力しており、地域全体で、認知症も含めた高齢者に優しいまち、高齢者になっても住み続けたいまちづくりを推進している。協定事業所からの通報により倒れていた方が発見されるなど、見守りネットワークが機能している。	協定締結事業所数(事業所)	137	139	141	
1-4	3	身近な地域における居場所の提供	■ 身近な地域における助け合い(互助)を促すため、地域の方々が気軽に集まれる拠点となるつどいの場の提供に向けた検討を行います。 ■ 認知症カフェ(ふれあいカフェ)やサロンなど、既存の事業との連携や世代間交流を前提とした事業内容を検討します。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	コロナの影響を受け、サロンやふれあいカフェ及び介護者のつどいについては開催ができない時期もあったが、コロナの終息とともに活動は再開している。ふれあいカフェについては、様々な主体による開催を目指し、人材育成や開催支援等を認知症地域支援推進員が中心に進めている。そのため、カフェの数も少しずつ増えている。 サロンにおいては多世代交流のできるサロンが誕生するなど内容の多様化が進んでいる。開催場所の確保が課題となっている。	認知症カフェ 開催箇所数(か所)	10	11	12	
								介護者のつどい 参加者人数(人)	79	110	120	

あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期)施策実施状況評価(令和3年度～令和5年度)

資料1

1:未実施、2:不十分だった(40%未満)、3:あまり十分でなかった(40%以上70%未満)、4:ある程度実施できた(70%以上100%未満)、5:十分できた(100%以上)

基本目標	施策の柱	施策番号	施策名	事業内容	担当課	実施状況の5段階評価	評価に当たり重視した基準	現状と課題(具体的な事業があれば記載してください)	事業実績の推移			
									項目	R3	R4	R5(見込)
1 地域で支え合う体制づくり	1-5	1	地域包括支援センターの運営	<ul style="list-style-type: none"> ■総合相談やケアマネジメント、医療・介護連携推進のための取り組みなど、地域包括ケアシステムを構築するための中心的役割を担えるよう、施策の進捗管理を行い、効果的な運営を目指します。 	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	委託の社会福祉協議会地域包括支援センターにて総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント、介護予防マネジメントを、直営の地域包括支援センターにて認知症施策、地域ケア会議を中心に、地域包括ケアシステムの深化・推進に努めている。今後は、独居高齢者、高齢者のみ世帯だけでなく、複合的な課題を抱えるケースに対しての他分野・多職種によるチーム支援は必至であり、重層的な支援においての地域包括支援センターに求められる役割について整理する必要がある。				
	1-5	2	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者が住み慣れた地域で安心した生活をしていくことができるよう、介護保険以外のサービスを含めて、高齢者や家族に対する多様な相談にきめ細かく総合的な支援を行います。 	高齢福祉課	5:十分できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	相談件数の増加とともに相談内容も多様化してきている。社会福祉協議会地域包括支援センターが身近な相談窓口として対応していくために、引き続き職員の資質向上に努める必要がある。				
	1-5	3	包括的・継続的ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ■介護支援専門員の日常業務の相談窓口となり、支援困難事例に対しては具体的な支援方針を検討し、指導助言を行います。また、介護支援専門員のネットワークを構築し、資質向上のための事例検討会や研修を通じ、地域の介護支援専門員と関係機関との連携を支援していきます。 	高齢福祉課	5:十分できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	介護支援専門員の資質向上を目指し、市内、近隣の居宅介護支援事業所の交流会と、居宅介護支援事業所を含めた近隣のサービス事業所との集まりを毎月、交互に実施。事例検討会や外部講師による講義などを企画し、介護支援専門員同士のネットワーク構築や介護支援専門員等の資質向上に努めている。支援ニーズの多様化に合わせて介護支援専門員の資質向上は引き続き必要である。	居宅介護支援事業所交流会(回)	4	6	6
									サービス事業者連絡会(回)	4	6	6
	1-6	1	介護人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ■愛知県と連携し、高齢者福祉や介護保険サービスについての周知や啓発活動を通じて、介護職の人材確保を支援します。 ■介護職員に対する処遇改善についての情報を適宜介護事業所へ提供します。 	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	介護保険サービスや処遇改善等についての情報を適宜介護事業所へ提供している。				
1-6	2	研修会・相談会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■総合事業の担い手を増やすため、基準緩和型のサービスの従事者を養成する訪問基準緩和型サービス従事者研修会を開催します。また、住民主体による支援団体を増やすため、個別地域団体相談会を開催します。 	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	毎年、基準緩和型のサービス研修会を開催しているが受講者数については伸び悩んでいる。訪問基準緩和型サービス従事者研修会を受講された方について、受講後の動向を把握していない。					

あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期)施策実施状況評価(令和3年度～令和5年度)

資料1

1:未実施、2:不十分だった(40%未満)、3:あまり十分でなかった(40%以上70%未満)、4:ある程度実施できた(70%以上100%未満)、5:十分できた(100%以上)

基本目標	施策の柱	施策番号	施策名	事業内容	担当課	実施状況の5段階評価	評価に当たり重視した基準	現状と課題(具体的な事業があれば記載してください)	事業実績の推移			
									項目	R3	R4	R5(見込)
健康づくりと介護予防の推進	2-1	1	健康づくり意識の啓発	■市広報紙や健診等の場を通じて、健康づくりに関する情報を提供し、健康づくりに関する意識の啓発に努めます。	健康推進課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	広報紙、公式ライン、健診等の場で健康づくりに関する情報を提供し周知啓発に取り組んだ。				
	2-1	2	健康教育、健康相談の実施	■保健師等による健康教育、健康相談を実施し、高齢者をはじめとする市民の主体的な健康づくりの支援を行います。	健康推進課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	広報紙では毎月健康応援トピックスにて健康に関する内容を掲載。出前講座については老人クラブやサロン等依頼があれば健康教育を随時対応した。保健事業については、シーズンに合わせてがん検診・健康マイレージ・高齢者インフルエンザ等を積極的に情報提供し、高齢者には低栄養や骨粗しょう症予防の健康教育を実施した。	出前講座(人)	107	173	200
									いきいき体操(人)	433	1,187	1,300
									はつらつクラブ(人)	265	700	800
									筋力アップクラブ(人)	154	261	300
									健康相談(人)	98	205	300
	2-1	3	健康づくり自主グループの支援	■市民主体の健康づくりを地域に広げるため、健康づくりを推進する自主グループ「活き生き推進隊」の活動を支援します。	健康推進課	5:十分できた	1.数値目標等の達成状況	健康都市連合日本支部大会において、団体の活動発表に向けての支援をしている。また地域の高齢者サロン等に出向き「あま体操」の周知啓発活動や市の健康相談事業において、体組成計を使用した適正体重の周知、野菜摂取量増加に向けてのレシピ集配付を行っている。	活き生き推進隊活動支援(回)	12	37	36
	2-1	4	食生活改善推進員の活動支援	■食生活等の事業や食育の推進を図ることによって、高齢者等の健康づくり等を支援します。	健康推進課	5:十分できた	1.数値目標等の達成状況	令和4年度末で食生活改善推進員を脱退し、令和5年度から食育ボランティアとして愛知県食育推進ボランティアにも登録し活動している。健康づくり計画の取り組み推進として、市と共同で、市民を対象とした野菜を使ったおやつ教室の開催、健康教育を行っている。	健康教育(おやつ教室、親子料理教室、広報等)(回)	14	10	7
2-1	5	精神保健福祉相談	■市内精神医療機関と連携し、精神科医による精神保健に関する相談を行い、こころの健康相談から診療を受けるにあたっての相談に応じます。 ■臨床心理士によるこころの健康相談(こころの相談室)を定期的実施します。	健康推進課	5:十分できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	年3回(6月、10月、2月)の実施で1回の予約枠が2名までと少ないため、相談者が相談したいタイミングで精神保健福祉相談につなぐことができない場合がある。					
2-2	(1)1	訪問型サービス	■従来の介護予防訪問介護に相当するサービスや、住民主体による生活援助サービスなども促し、高齢者の在宅生活を支える事業を実施します。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	介護予防訪問介護に相当するサービス「訪問従来型サービス」、訪問従来型の基準を一部緩和した「訪問基準緩和型サービス(訪問型サービスA)」についてはサービスを提供する事業所数は順調に増加しており、現在は適正であると判断される。住民主体による支援については、実施できる団体等の調整が難しいため、実施団体は1団体のみとなっている。					
2-2	(1)2	通所型サービス	■従来の介護予防通所介護に相当するサービスや、住民主体による運動・レクリエーション・通いの場等のサービスなども促し、高齢者の生活機能の向上や生きがいづくりを促す事業を実施します。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	介護予防通所介護に相当するサービス「通所従来型サービス」、通所従来型の基準を一部緩和した「通所基準緩和型サービス(通所型サービスA)」については、サービスを提供する事業所数は順調に増加している。					
2-2	(1)3	その他の生活支援サービス	■民間事業者だけでなく、NPOやボランティア団体、地域団体などの多様な主体が、配食や見守りなど、高齢者の自立支援につながる生活支援サービスを実施します。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	配食、見守りについては現在、社会福祉協議会の事業として行っている。また、生活支援は一部の老人クラブにおいて行われているが、多様な主体によるサービス提供までは実施できていない。					
2-2	(1)4	介護予防ケアマネジメント	■要介護状態等になることの予防や、要介護状態の軽減のためのケアマネジメントを行います。 ■対象者を把握しアセスメントを行い、介護予防ケアプランの作成、事業の実施、評価という流れにより、要支援、要介護認定の非該当者から、要支援に至るまでの連続的で一貫したケアマネジメントを行い、介護予防への効果を検証していきます。	高齢福祉課	5:十分できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	アセスメントが適切に行われているため、対象者の日常生活動作や、意欲が向上できる支援が介護保険サービスを有効活用することで維持できている。					

あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期)施策実施状況評価(令和3年度～令和5年度)

資料1

1:未実施、2:不十分だった(40%未満)、3:あまり十分でなかった(40%以上70%未満)、4:ある程度実施できた(70%以上100%未満)、5:十分できた(100%以上)

基本目標	施策の柱	施策番号	施策名	事業内容	担当課	実施状況の5段階評価	評価に当たり重視した基準	現状と課題(具体的な事業があれば記載してください)	事業実績の推移			
									項目	R3	R4	R5(見込)
健康づくりと介護予防の推進	2-2	(2)1	介護予防把握事業	■シニアいきいきアンケートを有効活用し、要支援・要介護状態となる可能性が高いと考えられる高齢者の把握に努めます。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	シニアいきいきアンケートの回収率は毎年高く、要支援・要介護状態となる可能性が高いと考えられる高齢者や、認知症リスクの高い高齢者などの把握に努めている。	アンケート対象者数(人)	14,809	14,947	14,724
									回収率(%)	88.1	85.6	87.0
	2-2	(2)2	介護予防普及啓発事業	■介護予防の知識について、広報やホームページ等、様々な媒体や機会を活用し、効果的な普及啓発に努めることで、市民の介護予防に対する意識醸成を図ります。	健康推進課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	高齢者が集う健康相談や健康教室等で介護予防・健康増進の必要性を伝えている。筋力アップクラブは、令和3年度から講師が変わり名称もワクワクからだ教室へ変更し行っている。	はつらつクラブ(人)※再掲	265	700	770
									ワクワクからだ教室(人)※再掲	154	261	360
									栄養教室(人)	5	-	-
	2-2	(2)3	地域介護予防活動支援事業	■介護が必要な状態にならないように予防し、高齢者の生活の質を高めることを目的に、地域における自主的な活動を育成するとともに、介護予防活動の拡大を支援します。	健康推進課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	要望がある団体に出向き、健康講話や軽体操、口腔内・栄養についての講話等を実施している。	サロン等健康教育(出前講座含む)(人)	107	173	190
									はつらつクラブ(人)※再掲	265	700	770
	2-2	(2)4	一般介護予防事業評価事業	■本計画で定める目標値の達成状況等の検証により、一般介護予防事業の事業評価・改善につなげます。	健康推進課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、通いの場が再開されフレイル予防教室を行った。 現在は、介護予防事業参加者数での評価(定量評価)となっている。	ワクワクからだ教室(人)※再掲	154	261	360
									栄養教室(人)※再掲	5	-	-
									出前講座の実施回数	7	17	20
2-2	(2)5	地域リハビリテーション活動支援事業	■地域における介護予防の取り組みを機能強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進します。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	通いの場(認知症カフェ、サロン、介護者のつどい等)において理学療法士によるコグニサイズを実施し、介護予防に取り組んでいる。	フレイル予防の周知啓発	3か所 122人	8か所 345人	8か所 350人	
								重症化予防・介護予防連携による訪問	79人 /85人	35人 /35人	35人 /35人	
2-2	3	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施	■地域の健康課題をもとに、通いの場において高齢者へ運動・栄養・口腔等のフレイル予防に着眼した支援を行います。 ■疾病予防や重症化予防、介護予防も併せた支援を実施します。	★保険医療課 健康推進課 高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	通いの場において、本市の健康課題である口腔・栄養・認知・転倒骨折予防に関連する複合的なフレイル予防教室を実施し、健康教育・知識の普及啓発を図る。 介護予防・日常生活圏ニーズ調査で、フレイルについて「知らない」が約7割であり、周知啓発の強化が課題。	総合事業への参画促進				
								総合事業の周知				
2-2	4	重症化予防・介護予防連携による訪問	■地域の健康課題をもとに、通いの場において高齢者へ運動・栄養・口腔等のフレイル予防に着眼した支援を行います。 ■疾病予防や重症化予防、介護予防も併せた支援を実施します。	★保険医療課 高齢福祉課	5:十分できた	1.数値目標等の達成状況	健診及び医療未受診で健康状態が把握できていない者が、生活習慣病やフレイルが重症化した状態で医療機関を受診することが懸念される。現状を把握できていない健康状態不明者へのアプローチを効率的・効果的に実施するため、高齢福祉課の「高齢者台帳」「シニアいきいきアンケート」を活用してハイリスク者の絞り込みを行い、訪問等により適切な医療や健診、サービスにつなげ重症化を予防する。					
2-3	1	総合事業への参画促進	■介護予防や生活支援を行うことができる事業者や団体を増やすため、各種連絡会や説明会の場において、総合事業の内容について周知していきます。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	事業者の参画が可能である総合事業における従来型・基準緩和型については、ある程度十分であると考えているが、地域団体等の参画が可能である住民主体による支援(訪問型サービスB)については今後、団体数を増やしていくことが必要であると考えられる。					
2-3	2	総合事業の周知	■総合事業への参加者や、担い手となるインフォーマルな組織・団体の参画を促すため、総合事業に関する情報を広報やホームページ等を通じて発信していきます。 ■総合事業の担い手を増やすため、基準緩和型のサービスの従事者を養成する研修を行います。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	訪問基準緩和型サービス(訪問型サービスA)従事者研修を受講された市民の方が実際に受講後に事業所への就職に繋がっていないのが現状。そのため今後は、事業所と連携を図り就職につながるよう工夫をしていかなければならない。					

あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期)施策実施状況評価(令和3年度～令和5年度)

資料1

1:未実施、2:不十分だった(40%未満)、3:あまり十分でなかった(40%以上70%未満)、4:ある程度実施できた(70%以上100%未満)、5:十分できた(100%以上)

基本 目標	施策 の柱	施策 番号	施策名	事業内容	担当課	実施状況の 5段階評価	評価に あたり 重視した 基準	現状と課題(具体的な事業があれば記載してください)	事業実績の推移			
									項目	R3	R4	R5(見込)
3 安心して 暮らせる ための 支援	3-1	1	緊急通報体制整備事業	■ おおむね65歳以上の虚弱な在宅ひとり暮らし高齢者および重度身体障がい者、もしくは重度身体障がい者をかかえる高齢者のみの世帯またはこれに準ずる世帯に対し、緊急時に備えた無線発信機および緊急通報用機器を設置します。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	虚弱なひとり暮らし高齢者等に対して緊急通報装置を設置した。新規設置者は例年40件程度あるが、死亡・入院などの理由による辞退者も多い。				
	3-1	2	徘徊高齢者家族支援サービス事業	■ 徘徊のおそれのある認知症の高齢者等にあらかじめ専用端末機を身につけてもらい、その人が行方不明になった時、家族の方に位置情報をお知らせします。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	利用者数が減少傾向にある。徘徊時、GPS発信機によりおおまかな現在地を把握することができ早期発見に有効であるが、徘徊時に機器を持ち歩いてもらうことが困難であることや、定期的に充電しないとバッテリー切れにより機能しない欠点がある。				
	3-1	3	日常生活用具給付事業	■ おおむね65歳以上の低所得のひとり暮らし高齢者等で、火の扱いに不安のある人に火災警報器および自動消火器の設置に対する費用を給付します。 ■ おおむね65歳以上のひとり暮らし高齢者等で、火の扱いに配慮が必要な人に電磁調理器購入に対する費用を給付します。 ■ おおむね65歳以上の低所得のひとり暮らし高齢者等で電話がない人に対し、電話機の設置に関する費用を給付します。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	低所得のひとり暮らし高齢者に対し、電磁調理器及び調理器具の給付、火災警報機の設置を行った。また、緊急通報装置の設置に合わせて、市所有の電話回線の貸与を行った。				
	3-1	4	老人ホームヘルプサービス事業	■ 介護保険サービスの対象とならない65歳以上の高齢者で、日常生活を営むのに支障がある人に対してホームヘルパーを派遣して、家事等の日常生活の援助を行います。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	介護保険サービス対象外の方への支援施策だが利用者は無かった。				
	3-1	5	在宅老人短期保護事業	■ おおむね65歳以上の在宅の虚弱高齢者で、介護者に代わって一時的に保護する必要がある場合に介護施設等で保護します。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	介護保険サービス対象外の方への支援施策だが利用者は無かった。				
	3-1	6	安心カード事業	■ 外出時に事故や災害等があった時に、携帯していると便利な緊急連絡先や既往歴等の情報を記載できる名刺サイズのカードを配付することにより、高齢者の安全と安心の確保を図ります。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	地域包括支援センターの窓口で安心カードを置き、窓口に来られる方が自由に持ち帰っていただけるように整えている。				
	3-1	7	救急医療情報キット事業	■ 健康上不安のある人に対し、かかりつけ医療機関、持病その他救急時に必要な情報を保管する救急医療情報キットを配付することにより、高齢者の安全と安心の確保を図ります。	健康推進課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	必要な方などでもその場で配付している。民生委員・児童委員協議会等で救急医療情報キットの周知・啓発を行っている。				
	3-1	8	配食サービス事業(社会福祉協議会)	■ おおむね65歳以上のひとり暮らし高齢者等で自ら調理することが困難な方に対して栄養に配慮した安価なお弁当(月曜日から土曜日のうち週6回まで)を提供することにより利用者の健康維持と安否確認を行います。	社会福祉協議会	5:十分できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	令和3年度までは、週3回の実施であったが、令和4年度より週6回と拡充した。現在、特に問題はないが対応できる業者が少ないことから都合により、事業の継続が困難になること見込まれる。	年間食数(食)	5,078	9,425	11,765
	3-1	9	寝具洗濯乾燥消毒サービス事業(社会福祉協議会)	■ おおむね65歳以上のひとり暮らし高齢者等で寝具類等の衛生管理が困難な人に対して、無料で寝具の洗濯乾燥消毒サービスを提供します。	社会福祉協議会	5:十分できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	・利用者全体の人数は、平成27年度より増加傾向にある。 ・寝具洗濯のみを利用する方が多いが、サービスの内容と頻度は充足している。 ・現在、利用者の負担金は無ないが、サービスの向上及び持続性を鑑みると検討が必要と思わされる。	寝具乾燥消毒(4・8・10・2月)(枚)	564	595	620
									寝具洗濯(6・12月)(枚)	466	454	490
3-1	10	家族介護継続支援事業	■ 「家族介護慰労金支給事業」や「家族介護用品購入助成券交付事業」など、在宅で介護をする人の経済支援や精神的負担の軽減を図ります。	高齢福祉課	5:十分できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	家族介護慰労金支給事業では対象になる方に案内をしている。家族介護用品購入助成券交付事業では、広報による周知を行っている。					

あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期)施策実施状況評価(令和3年度～令和5年度)

資料1

1:未実施、2:不十分だった(40%未満)、3:あまり十分でなかった(40%以上70%未満)、4:ある程度実施できた(70%以上100%未満)、5:十分できた(100%以上)

基本 目標	施策 の柱	施策 番号	施策名	事業内容	担当課	実施状況 5段階評価	評価に あたり 重視した 基準	現状と課題(具体的な事業があれば記載してください)	事業実績の推移			
									項目	R3	R4	R5(見込)
3 安心して暮らせるための支援	3-1	11	福祉用具・住宅改修支援事業	■福祉用具・住宅改修に関する相談・助言・情報提供・連絡調整等の実施、住宅改修費の支給の申請に係る必要な書類作成をした場合の経費の助成を行います。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	住宅改修支援事業費の請求ができる該当者には窓口にて案内をおこなっている。				
	3-2	1	権利擁護事業	■高齢者に対する虐待の防止や早期発見のためのネットワークの構築、成年後見制度についての情報提供等、高齢者の権利擁護に関する取り組みを行います。 ■高齢者虐待対応マニュアルの活用や、あま市虐待等防止ネットワーク協議会との連携を進めます。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	虐待等防止ネットワーク協議会では、2か月に1回実務者会議を開催し、他課と連携し、虐待等防止に向けての研修会の開催や街頭啓発活動・虐待ケースについて情報共有している。虐待の通報・相談があった場合には、マニュアルに沿って早期対応を行っている。				
	3-2	2	成年後見制度利用支援事業	■判断能力が不十分な身寄りのない低所得者に対する成年後見制度の市長申立てに要する費用や、その成年後見人等の報酬の助成を行います。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	相談があった場合には、成年後見制度利用支援事業の要綱に沿って支援を行っている。成年後見制度利用促進事業の推進に伴い、市長申立てに要する費用助成ケース及び成年後見人等の報酬助成のケースは微増している。	本人申立ての支援(件)	0	0	1
									親族申立ての支援(件)	0	2	2
									市町村申立て支援(件)	1	2	5
	3-3	1	高齢者向け住宅の情報提供	■高齢者が安全・安心に市内に住み続けられるようにするため、民間によるサービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム等の内容や利用方法等について、情報提供を行います。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	市公式ウェブサイト介護保険施設等の空所・待機者情報の掲載を行っている。				
	3-4	1	自主防災会への支援	■災害対応に必要な知識の習得等を目的とし、防災リーダー養成講座を実施します。自主防災会が訓練を実施した際や、資機材等を整備した際には補助金を支給し、継続して自主防災活動を支援していきます。また、高齢者や障がいのある人及び家族等に自主防災会への参加を呼びかけます。	危機管理課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	自主防災会に対する事業費補助 ・防災訓練補助金 参加人数×150円+直接経費(上限5万円まで) ・防災倉庫補助金 9/10補助(上限20万円まで) ・防災資機材補助金 1/2補助(上限10万円まで)				
	3-4	2	地域防犯対策の推進	■高齢者等に対する振り込め詐欺等の特殊詐欺を防ぐために、自治会や民生委員・児童委員、警察との連携を強化し、「犯罪のないまち」を目指していきます。	危機管理課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	振り込め詐欺対策の普及啓発活動 高齢者が集うサロンなどに、警察署員や危機管理課職員が出向いて、講話を実施している。 ・特殊詐欺対策機器の購入費用の一部を補助 1/2補助(上限6千円まで)				
	3-4	3	防災に対する意識啓発	■地域サロン等へ出向き、防災に関する知識や対策等の出前講座を行い、住民一人一人の防災意識を高めます。また、防災リーダー養成講座や防災ボランティア講座を開催し、防災ボランティアの育成に努めます。	危機管理課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	防災リーダー養成講座 ・自主防災活動の指導や住民へのアドバイスなど地域の防災活動に取り組む防災リーダーを養成する講座を5月上旬から6月下旬に開講する。 ・過去に防災リーダー養成講座を修了した人に対してレベルアップ講座を12月上旬に開講する。				
	3-4	4	介護事業所等に対する周知啓発(地域防犯対策)	■日頃から介護事業所等と連携し、防災啓発活動を行います。 ■また、介護事業等で策定している災害に関する具体的な計画を確認するとともに、災害の種類別に避難する避難経路等の確認を促します。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	介護事業所に対し、運営指導及び集団指導において災害時における業務継続計画の作成を促している。				
3-4	5	避難行動要支援者制度の充実	■「あま市避難行動要支援者避難支援計画」により避難行動要支援者名簿を作成しており、地域の協力を得ながら避難行動支援者個別計画の作成・整備を進めています。	社会福祉課	3:あまり十分でなかった	1.数値目標等の達成状況	避難行動要支援者名簿に登録のある方で避難支援等関係者への情報提供同意者のみ掲載された同意者名簿をもとに自主防災会と避難行動支援者個別計画の作成をしているが、個別計画の作成が進んでいない。	避難行動要支援者個別計画の作成件数	1	13	15	
3-5	1	感染症対策に係る体制の整備	■市民の健康・生活を守るため、「あま市新型コロナウイルス等対策行動計画」に基づき感染症対策を推進します。 ■ポストコロナ時の新たな日常の定着に取り組めます。	健康推進課	5:十分できた	1.数値目標等の達成状況	感染症対策について、市公式ウェブサイトや市公式LINE・メール、市長メッセージをYouTubeにて発信した。また、感染拡大期には、市民への不要不急の外出を控えるよう広報車にてアナウンスした。 感染状況に応じて、市公共施設の利用制限を設け、市民の方が安心して利用できる環境づくりとポストコロナ時の新たな日常の定着に取り組んだ。 また、新型コロナワクチン接種事業を実施し、感染症の収束に向けて取り組んだ。	市公式LINE・メールでの情報発信数(回)	16	6	6	
3-5	2	介護事業所等に対する周知啓発(感染症対策)	■日頃から介護事業所等と連携し、感染拡大防止、感染症発生時に備えた平時からの準備等の周知啓発を行います。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	介護事業所に対し、運営指導及び集団指導において感染症発生時における業務継続計画の作成を促している。					

あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期)施策実施状況評価(令和3年度～令和5年度)

1:未実施、2:不十分だった(40%未満)、3:あまり十分でなかった(40%以上70%未満)、4:ある程度実施できた(70%以上100%未満)、5:十分できた(100%以上)

基本 目標	施策 の柱	施策 番号	施策名	事業内容	担当課	実施状況の 5段階評価	評価に あたり 重視した 基準	現状と課題(具体的な事業があれば記載してください)	事業実績の推移			
									項目	R3	R4	R5(見込)
4 介護 保険 サ ー ビ ス の 充 実	4-4	1	介護保険制度の理解促進	■高齢者ができる限り住み慣れた地域で家族と暮らせるよう、介護予防事業を含む居宅サービスの利用促進を図るため、市広報紙や市公式ウェブサイト、介護サービスガイドブック等を通じて広報・啓発活動を行うことにより、介護保険制度に関する分かりやすい情報提供に努めます。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	相談窓口や電話等の中で必要な方に介護保険制度の説明を行っている。 市広報紙・市公式ウェブサイト・介護サービスガイドブック等を通じて啓発を行っている。ガイドブックについては毎月内容を更新し常に最新の情報を提供している。 出前講座については、企画政策課にメニューを提示し、希望があれば開催している。				
		2	介護給付等適正化事業	■介護保険サービスを利用する人に適正なサービスを提供するために、真に必要な介護サービス以外の不要なサービスが提供されていないかの検証、制度の趣旨の徹底や良質な事業展開に必要な情報の提供、サービス事業者による連絡協議会の開催等により、適切なサービスを提供できる環境の整備を図ります。また、介護給付等費用の適正化のために、認定調査状況チェック、ケアプランの点検、住宅改修等の点検、医療情報との突合・縦覧点検、介護給付費通知等の業務を実施しています。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	住宅改修等の点検については、ほぼ目標通りの件数を点検することができた。 ケアプランチェックについては、地域包括ケア会議だけでなく、実地指導の際にも行うようにすることにより、限られた実施回数の中で、より適正化につながると考えられる。	地域包括ケア会議(回)	3	5	5
									通知記載月数(月)	12	12	12
									住宅改修等の点検(件)	20	54	60
3	苦情処理体制の整備(介護保険サービス利用に関する苦情)	■介護保険制度では、介護保険サービスに関する苦情処理は、国民健康保険団体連合会に位置づけられております。しかし、市民の身近な機関で苦情処理を可能とするため、サービス利用に関する苦情について、介護保険担当課を窓口とし、また、市民が生活する地域で相談が受けられるように、地域包括支援センターも窓口として対応します。 ■今後も、身近な場所で相談できる環境整備に努めます。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	・近年は本人や家族からだけでなく、施設職員や近隣住民など、様々な方から苦情を受けるようになった。毎回苦情内容が異なるため、対応が難しい。 ・包括支援センターでの相談内容の大半は介護保険サービスの利用に関するものとなっている。						
4	情報開示の推進	■利用者が自らの意思により良質なサービスが選択できるよう、国のホームページ等の案内も含め、介護保険サービス事業所の情報の提供を実施していきます。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	市広報紙・市公式ウェブサイト・介護サービスガイドブック等を通して啓発を行っている。サービスガイドブックについては毎月更新し、常に最新の情報を提供している。 出前講座については、企画政策課にメニューを提示し、希望があれば開催している。						

あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期)施策実施状況評価(令和3年度～令和5年度)

資料1

1:未実施、2:不十分だった(40%未満)、3:あまり十分でなかった(40%以上70%未満)、4:ある程度実施できた(70%以上100%未満)、5:十分でできた(100%以上)

基本目標	施策の柱	施策番号	施策名	事業内容	担当課	実施状況の5段階評価	評価に当たり重視した基準	現状と課題(具体的な事業があれば記載してください)	事業実績の推移			
									項目	R3	R4	R5(見込)
高齢者の生きがい活動への支援	5-1	1	老人福祉センターの活用	<p>■老人福祉センターでの教養講座や趣味講座の充実を図るとともに、地域での仲間づくりや生きがいづくり活動を支援し、老人福祉センターの有効活用を図ります。</p>	人権推進課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	一人一人の地域での仲間づくりや生きがいづくり活動の支援という目的は十分に果たしていると考えます。	教室受講申込者年間延人数(人)	1,026	1,166	1,471
									施設一般利用者年間延人数(人)	3,834	5,055	5,100
									貸館利用者年間延人数	36	27	30
					子ども福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	<p>・おおむねの事業において、参加者は減少傾向にある。 ・参加者の固定化が見受けられる。</p>	ウォーキング・ラジオ体操(人)	2,636	3,512	4,460
									健康体操(人)	1,290	1,650	1,666
									太極拳(人)	1,986	1,955	2,400
	脳トレ(人)	1,774	1,702	2,184								
	輪投げにチャレンジ(人)	527	890	636								
	5-1	2	地域でのふれあい事業(シルバー人材センター)	<p>■それぞれの地域の実情にあわせ、居場所の整備・運営について支援します。 健康マージャン教室・・・指先を動かすことで頭の体操から認知症予防につながる。 いきいきふれあいサロン・・・歌ったりハンドマッサージで癒されたり、気軽に集うことのできる場所を提供し、参加者の多くが笑顔になりリフレッシュしている。</p>	シルバー人材センター	3:あまり十分でなかった	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	健康マージャン教室は、一般市民の参加が多くシルバー人材センター事業を知っていただく機会となっている。 いきいきふれあいサロンでは、リピーターの方が大半を占めており、新規の参加者がなかなか増えてきていない。				
	5-1	3	安心支え合いネットワーク事業(社会福祉協議会)	<p>■65歳以上のひとり暮らし高齢者等が、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、地域のボランティア(支え合いネット員)が、見守り、声かけとともにの安否確認を行うなど支援していきます。</p>	社会福祉協議会	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	事業を利用する依頼は減少しているが、大部分が安心電話による声かけとなっている。昨年同様に新たに登録する支え合いネット員も減少傾向にあるが、利用者の情報が更新されないことが課題である。	ネット員登録者数(人)	141	146	146
									利用登録者数(人)	181	176	176
5-1	4	ふれあい・いきいきサロン支援事業(社会福祉協議会)	<p>■身近なところを拠点として、高齢者等が生きがいや社会参加、健康づくり、閉じこもり防止を目的に、参加者とボランティアと一緒に企画・運営しながら茶話会やレクリエーション・小物づくりなどの活動を行うサロン活動を支援していきます。</p>	社会福祉協議会	3:あまり十分でなかった	1.数値目標等の達成状況	<p>少しずつサロンの数が増えてきている実績はあるが、まだ、ない地域もあるので、今後の課題となる。 コロナ禍で開催を断念するサロンもあり、実施件数が減少傾向にある。サロンが廃止となった地域や開設されていない地域に対して、新たに開設が課題である。</p>	サロン利用者数(人)	2,924	4,512	7,752	
								サロン実施回数(人)	188	283	375	
								サロン数(人)	29	27	28	
5-1	5	高齢者の就労支援(シルバー人材センター)	<p>■高齢者の就労支援として、地域に密着した臨時的・短期的な仕事を企業等から有償で引き受け、会員に提供します。 ■就労を通じて、高齢者が地域で活躍でき、生きがいを得る機会を創出します。</p>	シルバー人材センター	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	高齢者の仕事を通じて、活力ある地域社会づくりに貢献するとともに、生きがいのある生活を送ることができるように事業を推進し、令和2年以降は就業延人数は毎年増加している。一方、課題としては、民間企業等の定年の延長や継続雇用制度の影響により年々、会員数の減少が続いている。	会員数(人)	471	449	460	
								就業延人数(人日)	51,665	53,110	54,000	
5-2	1	地域活動に寄与する場の確保と提供	<p>■市内の公共施設などをボランティアや地域活動団体に貸し出し、地域活動の場の提供を推進します。 ■可能な限り身近な地域での場の確保ができるよう、様々な地域資源を活用した場の確保を検討します。</p>	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	通いの場(認知症カフェ、サロン)を開催しているボランティアや地域活動団体に市内の公共施設を貸し出している。					
5-2	2	老人クラブ活動の充実	<p>■魅力ある老人クラブづくりに向けた取り組みに対して積極的な支援を行うとともに、自治会を単位としたクラブにとらわれず、地域の特性を備えた広域的な単位老人クラブの組織の強化と活動の活性化を支援していきます。</p>	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	補助金を支出することで、老人クラブの活動を支援し、高齢者による社会貢献につなげた。					
5-2	3	老人クラブの組織強化	<p>■身近な地域の単位老人クラブが合同で事業を行うことができるよう支援し、活動の活性化と組織強化を図ります。</p>	社会福祉協議会	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	地区老人クラブ連合会へ活動費として助成金を支給して、活動を支援する。年々、クラブ数は及び会員数も減少しており、60代の若い方の入会が少ないことが課題。	老人クラブ数(団体)	123	108	108	
								会員数(人)	4,761	3,972	3,972	

あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期)施策実施状況評価(令和3年度～令和5年度)

資料1

1:未実施、2:不十分だった(40%未満)、3:あまり十分でなかった(40%以上70%未満)、4:ある程度実施できた(70%以上100%未満)、5:十分できた(100%以上)

基本 目標	施策 の柱	施策 番号	施策名	事業内容	担当課	実施状況の 5段階評価	評価に あたり 重視した 基準	現状と課題(具体的な事業があれば記載してください)	事業実績の推移			
									項目	R3	R4	R5(見込)
5 高 齢 者 の 生 き が い 活 動 へ の 支 援	5-2	4	NPO団体・市民ボランティア等との連携推進	■市民活動センターを拠点に健康・福祉、子育て、高齢者サロン等、様々な分野で活動するNPO団体や市民団体等に、情報収集・発信、相談等ができる場を提供するなど、活動充実に向けた支援による市民協働を促進していきます。	企画政策課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	市民活動センターの指定管理者と定期的にミーティングを行い、市内の市民活動、ボランティアについて、情報の共有を行い、包括的な支援を行った。				
	5-3	1	生涯学習の場の確保	■シルバーカレッジを開催することにより、高齢者の交流・健康づくりの場を提供し、地域コミュニティの連帯感を育み、地域社会の活性化を促します。 ■高齢者を対象とした講座を開催し、多くの高齢者に公民館を活動の拠点としていただくために、公民館事業を展開していきます。	生涯学習課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	シルバーカレッジについては、ここ数年の参加者が定員を下回っている傾向がある。	シルバーカレッジ(人)	29	30	33
	5-4	1	地域スポーツ活動の推進と指導者・ボランティアの養成	■あまスポーツクラブと連携を図りながら、高齢者が気軽に行えるスポーツ事業を推進し、地域でのボランティア指導者の育成・活動に対しての支援を行っていきます。	スポーツ課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	教育委員会事業の他に、スポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員、地域スポーツ員及びあまスポーツクラブが独自の事業を実施しており、例年実施している事業については、参加者数は堅調な推移である。 一方で、事業及び実施主体の統合・整理が今後の検討課題である。	ラジオ体操の集い(人)	481	409	600
	5-4	2	楽しいスポーツの啓発	■あまスポーツクラブと連携を図りながら、高齢者をはじめ、誰もがスポーツに親しめるように、より多くの世代が参加できるスポーツ事業の充実を図り、クラブ活動や他市町村を含めたスポーツ事業の情報提供を行うなど、幅広い世代が参加できるスポーツ事業の実施と情報提供を図ります。	スポーツ課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	高齢の方でも参加しやすい種目のスポーツ大会を開催。また、広報による大会情報の掲載や、あま市スポーツ協会のホームページを新設し、効果的な情報発信の充足を図った。 市内で活動している団体の種目であれば事業や大会を開催できるが、ニュースポーツなどの一部の種目は開催できる施設や備品が十分整備・確保されていない面がある。	高齢の方が参加しやすいスポーツ大会の開催 ◎市民グラウンド・ゴルフ大会 ◎市民ゲートボール大会(人)	243	230	220
	5-5	1	シルバー人材センターの活動支援	■高齢者がこれまで培ってきた豊かな知識や技能を發揮することができるよう、就業の機会を提供しているシルバー人材センターの活動を支援します。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1.数値目標等の達成状況	働き方改革が進められている中で、定年延長や働き方の多様化を通じて会員数が減少している状況であるが、生涯現役を希望している高齢者も多いことから、シルバー人材センターの活動をより活発にし、会員数の増加に努めていく。				
	5-5	1	高齢者の就労に関する情報の提供	■働く意欲を持った高齢者が生き生きと働き続けることができるよう、ハローワークや産業振興課をはじめとする関係機関と連携しながら高齢者の就労に対する理解促進他、就労機会の提供・就労に関する情報提供に努めます。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2.数値目標達成状況以外(事業の必要性等)	市公式ウェブサイト「ハローワーク津島」で求人を受理したものなかで、求人企業の方が事業者名等を含めインターネット上で情報提供することを希望された求人情報を掲載し、情報提供に努めている。				